

よく新聞などで、「景気動向指数2カ月ぶりにプラス」などと書かれた記事を目にすることがありますが、「景気動向指数」とはいったいどんなものなのでしょうか？

景気が良いとか悪いとか、感じ方は人それぞれです。そこで、景気の動きを客観的に把握するために、景気動向指数が登場します。これは、生産、雇用など、景気に敏感に反応する指標の動きなどから作成され、景気の現状把握などに用いられます。

県では、国の景気動向指数の作成基準によって、県版の景気動向指数を作成しています。過去30年の山口県の景気動向指数（一致指数）の動きをグラフにしてみました。

景気は、拡張局面と後退局面のサイクル（景気循環）を繰り返します。グラフが上昇していれば拡張局面、下降していれば後退局面という見方をします。

ここで、一般的に知られている景気の拡張期（バブル景気、IT景気、いざなぎ景気）と後退期（バブル崩壊、世界同時不況）をあわせて見てみます。グラフの上でも、拡張期では上昇傾向、後退期では下降傾向がはっきりとあらわれています。

次に、ここ数年の景気の動きを、グラフを拡大して見てみましょう。ほぼ横ばいで推移していますね。ちなみに、国の景気動向指数もだいたい同様の動きを示しています。景気の動きは目に見えないので、このようにグラフで見ると変化のようすがよくわかります。

今年も残り少なくなりました。来年は酉年です。客を「取り込む」ということから、商売繁盛の年になると言われています。今日ご紹介した景気動向指数のグラフが、上に向くような一年になればよいですね。

山口県景気動向指数の推移

